

令和3年度 学校評価表

学校教育目標	この島に生まれ育った誇りと自信を持って、学び続ける生徒の育成		
ミッション	地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展	ビジョン	今年度はコミュニティースクール元年である。小中学校の連携の充実を図り、学校運営協議会の機能化をめざす。島の未来を担うのは中学生を合言葉に、SDGsを共通言語に地域等と連携し、持続可能なまちづくりに貢献する。福山市立大学等の指導を仰ぎ、取組の充実を図ることで2年後にユネスコスクールへ加盟し、志を同じくする世界の学校と連帯する。

尾道市立瀬戸田中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画		
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	7月	1月	達成率	評価	結果と課題の説明	二次評価			改善案
				達成値	達成値	イ				ロ	ハ		
知	主体的に学ぶ生徒	1 教師の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種学力調査等の分析と授業改善 「課題発見・解決学習」の授業実践 	80%	90.8	93.8	117.3	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は93.8%であった(7月比+3.0ポイント)。その中で、「よくあてはまる」との回答は31.2%であった。目標値は超えたが、「よくあてはまる」の生徒を増やしていきたい。 肯定的回答は74.7%であった(7月比+3.1ポイント)。校内研究授業等を通して、生徒が課題解決に向けて主体的に取り組むことのできるような課題や問いの取組に取り組みたいことが一定の成果を上げている。 全教職員が研究授業を実施し、授業改善に向けた交流をすることができた。教員間の交流の中で、ICTの活用方法や、生徒の学習の振り返りシートのブラッシュアップを行った。 	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 授業見学等の機会が少ないが、アンケートからわかりやすい授業がなされていることが判断できる。 自分の苦手な教科で「わからない」と言える空気づくりも大切であると思う。 アンケートの内容がわからないので、「よくあてはまる」の内がわからない。 教職員の授業力、指導力向上に向けた取組の様子ホームページから伝わる。授業風景も多く掲載してほしい。 授業を参観させていただき、ICTの活用がすばらしく進んでいると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> どの教科も生徒が主体的に学習に向かうことを促すような課題設定を、単元を通して行っているが、その中で生徒が意欲的に学習する姿が見られている。 これからは「意欲的に学習しているか」という見方だけでなく、「確かな学力がついているか」という見方で授業改善を行っていく。「わかった」という印象だけでなく、実際に「できた」という達成感が感じられる課題を設定し、アンケートの回答として「よくあてはまる」と自信を持って答えられる生徒を増やしていきたい。
徳・体	心身共にたくましい生徒	1 ボランティア活動の充実 2 自己肯定感の向上 3 体力向上等に励む生徒	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の活性化とリーダーシップの養成 スクールソーシャルトレーニングの継続 行事の事前・事後の活動の充実 部活動の参加率 	80%	なし	なし	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウィルス感染症対策で対外的なボランティア活動は中止になった。校内においている生徒も見られる。 「自分はいかにできているか」自分のよさは周りが認められている」として肯定的回答は80.1%であった。ソーシャルスキルトレーニングやスクールカウンセラーによる個別面談を実施し、行事では朝礼や運動会や文化祭、運動会賞状を渡すことができた。課題としては、縮小により、生徒主体の動きをつくることができなかつたことがある。 肯定的回答は76%であった。コロナにより部活動が中止になり、生徒の部活に対する意気の低下が見られる。家で活動している生徒も見られるが、大多数は家で自主的な活動しておらず、体力の低下が見られる。 	7	2	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であっても、自己肯定感を高める創意工夫を期待したい。 コロナ禍で体力の低下が心配である。家でできる体育・部活動の借題を出してはどうか。 コロナ禍でも工夫して学校行事を行っていた。文化祭は見応えのある作品、展示物があった。 地域のボランティア参加の仲介役にコーディネーターを活用してもらったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を主体とした、校内でもできるボランティア活動(生き物観察、花壇の手入れ、清掃活動など)やコロナ禍でもできる行事(クイズ大会など)を立案し、実行させる。 運動会では国長リリーダなどとして、生徒の意気込みをのり上げようとする体制を再構築し、来年度実施する。 ソーシャルスキルトレーニングやスクールカウンセラー面談を継続的に実施する。 當下提示である「setostagram(セスタグラム)」の活動や習字・ポスターの掲示を継続的に行う。 市内大会で優勝したいという気持ちを育てた生活がかなり多いので、その気持ちを大切にしたい。少ない時間でも効果的な練習ができるよう、生徒の意欲を養える声かけを行う。
信頼される学校	自校を誇りに思える生徒と心身ともに健康で生き生きと職務に邁進する職員	1 ぶるさと学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」の充実 積極的な情報公開 	80%	81.6	85.6	107.4	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は85.6%であった(7月比+4.0ポイント)。1年生はSELと「弁当の日」、2年生は地外の学校との交流、3年生は地域のカルタなど、それぞれ取組において成果が目に見える形であられ、生徒も達成感を感じている。 年間を通しての達成度は100を上回った。年間のホームページの更新は100回以上で、継続的に情報の発信に努めた。また、各種よりや学校メールで、情報をタイムリーに伝えることができた。 年間目標を達成した教職員は14名(17.7%)であった。毎週水曜日は早朝の退行を全員で意識したり、退行の声かけをお互いししたりするなど、働き方改革を推進することができた。 	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 地域がかるたどてもよかった。 地域がかるたどつくりは特筆すべき成果である。 外から瀬戸田に移住した方の声がかけたらよいと思います。 コロナ対応で業務がふえていると思われる。職員の間で業務に努めてほしい。 総合的な学習の時間は、各学年で特色ある内容を実施できて感動した。 地域教育委員を推進委員会を活用し、地域に向けての発信がもっとあるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」を中心に、生まれ育った地域に誇りを感じるような活動をこれからはも仕組んでいく。校内だけで完結する活動ではなく、地域や校外などの外とのつながりの中で主体的に学ぶ機会を設定していく。 学校の取組や情報系、ホームページ各ページより、学校ホームページ等を利用して、タイムリーに継続的に今後発信していく。 前後外労働80時間以内は、校種上は実績はいい。しかし、できる限りで、業務の軽減し、主任等にできる限り業務を継続し、職員の間で業務に努めていく。
校区スタウンダード	家庭での約束事項(9年間を通じての小中共通目標)	1 基本的な生活習慣の確立 2 あいさつ・返事等 3 基本的学習習慣の確立(家庭学習と読書の習慣化)	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ご飯 “時を守り場を清め礼を尽くす”の行動化 セミナー学習の達成率80%以上 読書量：月2冊以上の生徒80%以上 	80%	82.2	76.7	95.6	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は76.7%で6.5%減少した。遅刻を繰り返す生徒の増加、帰塾しない生徒、悪戯や窃盗を訴える生徒が増加したように感じている。部活動などない時間を確保していきたい。 読書の増加は、「読書」が88.9%で2.2%減少、「挨拶」が85.4%で1.2%減少であった。読書の分量は学校委員会が各クラスの達成率を委員会で提示するなど効果があったが、それ以外の読書は読書会での取り組みが期待されている。あまり浸透していないように感じる。 セミナーについては達成できた。本月に2冊以上読んだ生徒は14名(17.7%)であった(7月比+6.8ポイント)。行事に関連する書籍の紹介などを行っているが、生徒の読書量の増加につながっていない。 	6	2	<ul style="list-style-type: none"> 注意するとすぐ減るが、ノーヘルの生徒をたまに見かけられる。 読書活動や新聞活用は学力の定着に繋がるので、地道に努力してもらいたい。 学校と地域、家庭の一体を目指し、もっと学校から家庭や地域に情報を発信したところか。 読者の増加は、スマホ・ゲーム依存が背景にあるのではないか。 挨拶を伝統文化にするのであれば、教職員、生徒、保護者、地域住民の雰囲気作りが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内の部活動以外の時間でも楽しいことを増やしていく必要がある。読書活動は子どもたちが、勉強面でも、達成感を感じさせるため、中途半端な指導で終わらず、頑張り続ける課題の設定を行い、やりきったことへの褒め言葉が重要である。 生徒会を通して点検活動の集計を全体に伝え、生徒一人一人に課題意識を持って行動させたい。 読書活動の活性化を図りたい。読書への取組を行ったが、教職員からの働きかけが主になっていた。委員会活動の活用など生徒主体の動きをつくり、生徒会に対する意識を養っていくことが必要である。

【自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成)
 C: 60≦(もう少し) < 80
 B: 80≦(ほぼ達成) < 100
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。